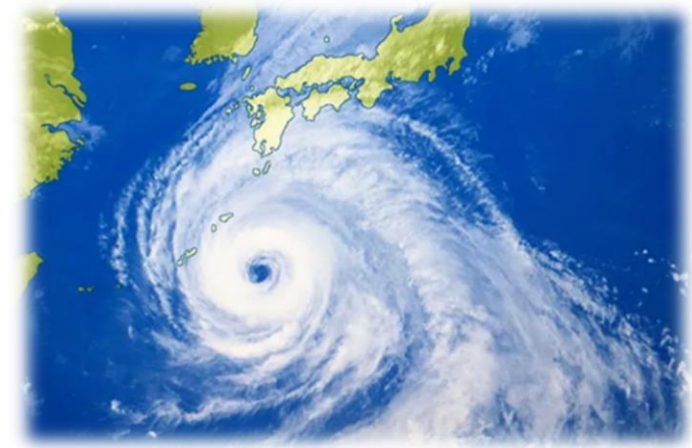


台風豆知識

台風とは

北大西洋および南シナ海で発生する、強い熱帯低気圧の呼称です。最大風速がおよそ毎秒17メートル以上のものを指し、1年間に平均して約25個発生、そのうち約12個が日本に接近、約3個ほどが上陸(※)しており、7月～10月にかけて接近・上陸する数が増える傾向があります。台風の暴風や大雨は、風災や水災、土砂災害といった深刻な被害を与えます。

※「上陸」は、台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸に達した場合を指します。



日本の地理的特徴と台風

日本は太平洋に面しており、南から北へ伸びる計上をしているため、台風の進路に大きく影響を受けやすい地理的条件を持っています。

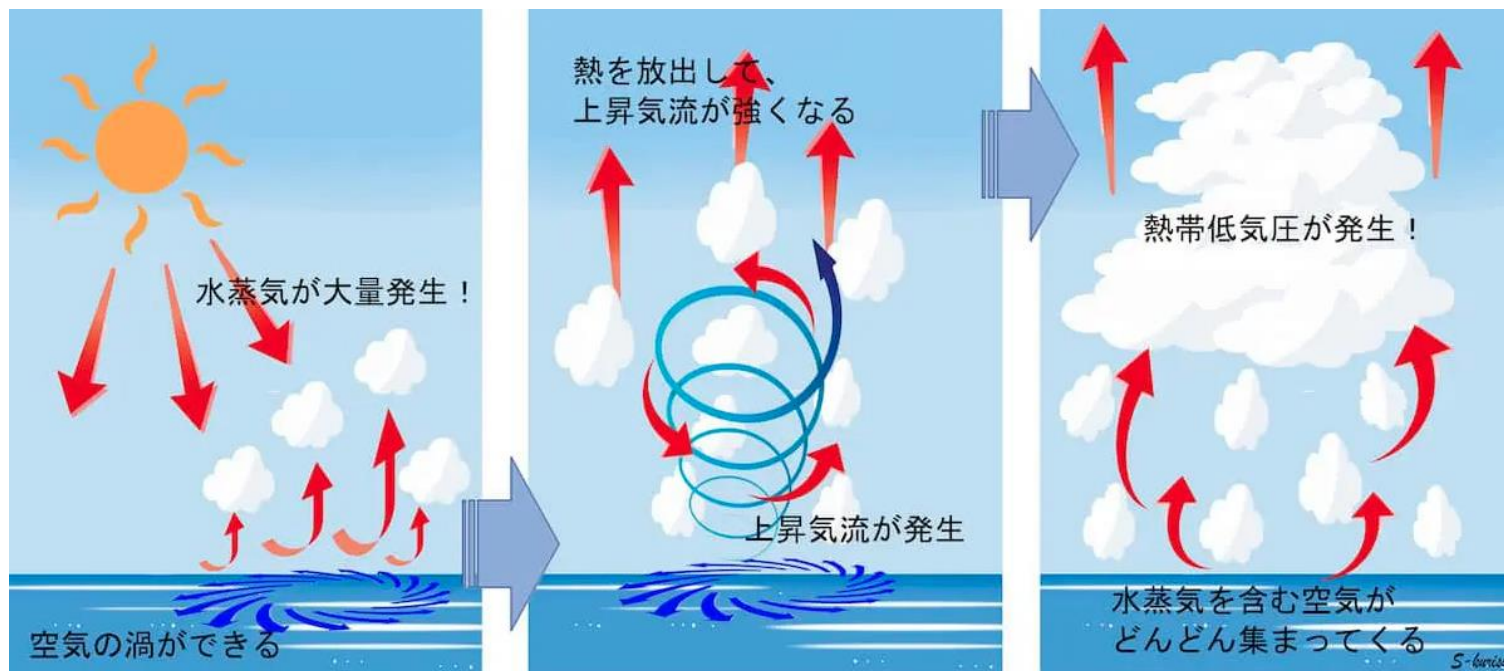
特に沖縄や九州地方は、毎年多くの台風が上陸し、風雨の被害を受けることが多い地域です。

また、台風がもたらす雨量は、日本特有の山岳地形と相まって、土砂災害や河川の氾濫を引き起こす原因となります。



台風が発生するメカニズムとは

台風は必ず海上で誕生します。多くの場合、日本の南に位置する熱帯地方の海上で発生しています。海水温が高く、雲ができやすいので台風が誕生する条件が揃っているのです。



Step.1

熱帯の海上に空気の渦ができます。一度空気の渦ができると、海上で発生した水蒸気を含んだ空気が流れ込んできます。

Step.2

空気の渦からやがて、上昇気流が発生します。この時点で、水蒸気を含んだ空気はどんどん流れ込んできます。やがて、流れ込んでくる水蒸気が水粒に変わりますが、この時に多くの熱が放出されます。放出された熱によって、さらに上昇気流が強くなるのです。

Step.3

水蒸気を含む空気が集まって積乱雲に発達します。この積乱雲の中には、空気の渦が残っていて、積乱雲に合わせて空気の渦も大きく成長するのです。こうして、台風の元となる熱帯低気圧が誕生します。

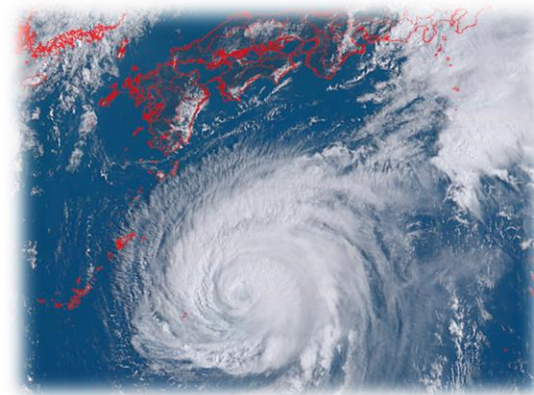
その後、熱帯低気圧がさらに発達すると、**台風**が発生するのです。

平均風速・瞬間風速・最大瞬間風速の違い

台風が接近するとよく聞かれる平均風速・瞬間風速・最大瞬間風速。それぞれが示す意味の違いや、風速と被害の目安は？

風は一定の速さで吹いているものではなく、あるときは強く、あるときは弱く、刻々とその速さが変わっています。このような風速の小刻みな変化を『風の息』と呼んでいます。

- 風速 : 10分間の平均風速
- 瞬間風速 : 3秒間の平均風速
- 最大瞬間風速 : 瞬間風速の最大値



風の強さ	平均風速 (m/s)	およそ の時速	人的影響	屋外・樹木	走行中の車	建物	瞬間風速 (m/s)		
やや強い	10以上～ 15未満	～50km	風に向かって歩きにくい。 傘がさせない	木全体が揺れ始める。電線 が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中 では横風に流される感覚を受ける。	樋（とい）が揺れ始める	20～30		
強い風	10以上～ 15未満	～70km	風に向かって歩けない。転 倒する人も出る。 高所での作業は極めて危険。	電線が鳴り始める。看板や トタン板が外れ始める	高速運転中では、横風に流される感覚が大き くなる。	瓦・屋根葺材がはがれる。雨戸やシャッ ターが揺れる。			
非常に 強い風	20以上～ 25未満	～90km		細かい木の幹が折れたり、 根の張っていない木が倒れ 始める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。		通常で速度で運転するのが困難になる。	瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、 転倒する。 ビニールハウスのフィルムが破れる。	30～40	
	25以上～ 30未満	～110km	走行中のトラックが横転する。			固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる 養生の不十分な仮設足場が崩落する。			
猛烈な風	30以上～ 35未満	～125km					屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯が倒れる。 ブロック壁が倒壊する。	
	35以上～ 40未満	～140km		住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。					
	40以上	140km～				60～			

台風の覚えておくべき5つの特長

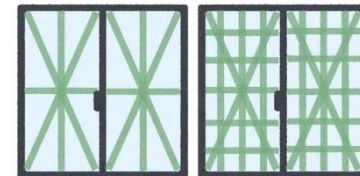
- ☑ 前線や気圧配置等の状況によって、台風から離れた場所でも大雨が発生することがある。
- ☑ 台風の進行方向の右側では、台風本体の風と、台風の周りの風が同じ方向に吹くため、風が強くなる。
- ☑ 日本での台風の最多発生は1967年で、年間39個にもものぼった。
- ☑ 2000年から、北西太平洋または南シナ海の領域で発生する台風には、「トカゲ」や「ハト」等、日本語の名前が付けられているものがある。
- ☑ 夏は太平洋高気圧に覆われ、偏西風が弱いため、夏の台風は秋と比べて進み方が遅く、複雑な動きをするものが多い。

強風や浸水から身を守る 台風に備えよう！

事前準備

家の窓ガラスや雨戸を補強する

強風に備えて、家の窓ガラスのひび割れや窓枠のガタつきがないか調べ、窓ガラスにテープを貼るなどして補強しましょう。万が一、窓ガラスが割れたときのためにカーテン等は閉めておきます。雨戸にガタつきやゆるみはないか、家の外壁に亀裂等はないかなども台風の前にチェックしておきましょう。



事前準備

家の周りにあるものを移動・固定させる

強風によって飛散する可能性のある植木や置物は、室内へ移動させましょう。室内へ移動できない庭木や塀には、支柱を立てるなどして補強を行います。瓦やトタンは強風で飛ばされると大変危険ですので、ひび・割れ・ずれ・はがれはないかを確認し、事前に修理を行える場合は、必要に応じて修理するようにしましょう。



事前準備

床上の浸水対策をする

台風に伴い大雨や洪水が予想される場合は、浸水の被害を防ぐために、家財や家電等は高所もしくは2階に移動させるのが安全です。漏電や感電等を起こす危険があるため、家電等のコンセントは抜いておくようにしましょう。



発災直後

車の運転中に台風に遭ったときはスピードを出しすぎない

車のスピードを出すと、横風の空気抵抗が高まり、ハンドルをとられやすくなります。トンネルの出口は、強風が吹く外部へ出るときにハンドルを大きくとられる可能性があり、また、山の谷間に架けられた橋の上や防音壁の切れ目等も風が強く吹くポイントなので、スピードを出しすぎないように注意しましょう。

